

【中 干 し 後 の 水 管 理】

中干しは、遅くとも幼穂形成期前に終了すること。本年は、生育が旺盛で、幼穂形成期が早まると予想される。参考までに、農業センター 5 月 1 0 日植え稚苗ササニシキの 6 月 2 3 日時点における幼穂形成始期の予想は、7 月 8 日頃で、平年より 4 日早い予想。

中干ししたほ場の表層は、酸化状態にあるので、中干し後すぐに湛水状態にすると急激に還元が進み根を傷める。このため、中干し後の水管理は、走り水をしてから間断かんがいをする。

幼穂形成期以降、低温注意報等が発令された場合は、ただちに深水管理とし、幼穂の保護に努める。水深は、幼穂保護のため幼穂の伸長に併せて段階的に 5～10 cm 程度とする。

深水が保てるよう畦畔等の補修を行うとともに、地域として深水かんがいができる用水管理体制を整えておく。